

すよ」というお話でしたが、実際行ってみるとそうでもない。授業が遅れてしまうクラスがあったり…。比べてしまうと、あっちが良かったという思いが出てくるので、親がそういう思いしていると子どもにもそれが伝わってしまうから、とりあえず親が先に慣れようと互いに声掛け合っていたのですが、なかなか…。保護者会に行くと移籍したお母さんの顔が多く見られたので、やはりお母さんも慣れようがんばっているんだなあと思いました。南小にはPTAがなかったけれど、古ヶ崎小や北部小にはきちんとしたPTAがあり、子どもたちがスムーズに学校に入っていったのもPTAの方の力が大きかったなあと思います。

1年が過ぎて、6年生のわが子の「北部小の卒業生として、これで卒業するんだな」という言葉を聞いて、一年前は、「一年しか行かないんだったら中学校へ行ってしまうか」と真剣に言っていた様子が嘘のようです。親たちもあんなに「統廃合、統廃合」と言っていたことが嘘のようです。あの時のことは何だったのだろうと、改めて顔を合わすと「あの時はこうだったねえ」と話をしています。

古ヶ崎南小の跡地は、今も地域開放されています。子どもたちも懐かしらしく、たまに学校に電気がついていると、気になるらしく、「学校は電気がついているほうがいいよね」と言っています。学校が気になっているんだなあと思います。また、子ども会の行事で学校をお借りして、教室の中に入ると子どもたちは喜んで、「まだここにこんなのある」と言いながら、使っている状態です。来年度も今までどおり使えるということですが、その後どのようなになっていくのかということについては、まだお話はないです。

朝、子どもたちがあっちの学校へ行く子と、こっちの学校へ行く子がすれ違うのを見るとやはり何となく複雑な思いがします。

統廃合で児童数が増えたからといってクラス替えをするということは一切なくて、通常の3年生と5年生のところでクラス替えがあっただけです。クラス替えをしないしてほしいという受け入れ側の保護者の方たちの要望があったということで…。親も一所懸命学校に慣れようという思いで、子どもも徐々に学校に慣れてきてくれたらいいなあという思いで、一年間過ごしてきました。



【榎本さんのお話】

小学校4年生と中学校3年生の子どもがいます。新北小には子どもが500人くらいいて、400人以上は新西小に行きました。うちの子を含めて、30~50人くらいが横須賀小に行きました。家から新北小まで10分位で行けたのですが、新西小に通うとなると20分で着けるかなあという距離です。たまたまうちのこの学年に限り、20人くらい「横須賀でいいや」と言う人がいたので、20人もいるならうちも「横須賀でいいや」と近くの学校を選びました。その他、新南小と馬橋北小にそれぞれ5人くらいずつ行きました。

新西小では、元北小の子どものほうが多いということで、統廃合して最初の始業式には校歌は音楽の先生が歌っただけ。半分以上の子は新西小の校歌を知らないんですから。

横須賀小にはうちの子どもの学年はおおぜい行ったので、クラスに5人くらい北小からの子がいたので、それほどカルチャーショックのようなものはなかったです。親同士の話を聞いていると、「やっぱり私たちは学区外なんだよね」と聞きます。どういうところでそう感じるかということ、学年別集団下校をする時に先生たちは、線路のこちら側までは送ってくれません。手前で曲がってしまって、学区外はまとまって帰りなさいと。新西小でも、学区が広くなったので、鉄塔通りから先は送らなくていいということになっているらしいです。一人

になってからが危ないのに。横須賀小にはPTAがあって、地区委員会がパトロールをしていますが、みんな線路の向こう側。リサイクルもやっているのですが、その収集場所も線路の向こう側。こういうところで学区外ということが影響するのだなぁと思います。でも行く前は私たちはそこまで考えませんでした。選択制というのはこういうところで見捨てられるんだということが分かりました。

新北小ではロング昼休みをやっていたので、それが当たり前とって思っていたが、珍しいんですね。普通の昼休みは20分ぐらいでその後掃除をするのですが、水・金曜日はその掃除がなくて昼休みが40分になります。その日の掃除は5時間目が終わった後に簡単にやる。40分のロング昼休みで、子どもたちはじっくり遊べる。通常の昼休みだと子どもたちがやると興に乗ったところで終わってしまいます。だから子どもたちには好評でしたが、横須賀小にはロング昼休みはありません。新西小では週に一度ロング昼休みがあるようです。

新北小の校舎は、今管理人が一人いて、地域に開放しています。校庭は今まで通り使っているのですが、廃校後にねばぁらんどが始めた「わくわく広場」は週2回放課後の子どもの居場所作りということで、校庭・教室・体育館の空いているところを使っています。それから「子育てるーむ」という、妊婦・0才~2才児位の親子を対象としたサロンも週2回教室を使っています。そこは教室を自分たちでカーペットを張り、ペンキを塗り、きれいにして使っています。



【質疑応答と意見交換】

Q) 子どもたちが行った先で、クラス替えがなかったということは、既存のクラスに振り分けられたということですか？

A) 3年生と5年生は通常クラス替えがありますので、その学年ではクラス替えがありましたが、他の学年ではありませんでした。

Q) まさに転校生だったというわけですね。

A) 北部小ではここ何年か周りにマンションが立ち始めて、今の6年生は1年生の時から毎年クラス替えがあるような状況だったので、今回の統合によって6年生が17名ほど行ったのですが、そのためにまたクラス替えをするのは…。私たちのほうからクラス替えをしてほしいという希望は出せませんでした。

Q) 新しいクラスに入って、授業の面でいいんだと教育委員会は事前に言っていたけれど、実はそうではなかったというお話がありました。具体的にどういうことですか？

A) 古ヶ崎南小の1学年1クラスの生活から複数学級になったわけですが、クラスそれぞれに進み具合にずれが出てきます。古ヶ崎南のときは、少ない人数をさらに分かれて10人前後で算数の授業をやっていました。

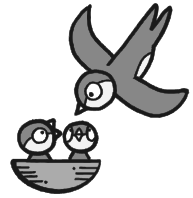
今年、学校選択制を導入してから初めて一中で抽選がありましたね

A) 21名の方が抽選で外れたんです。もう一度申し立てでやろうとしたら、それは受け付けられなかったようです。でも、学区内に住所を移せばOKという話も聞いています。「友だちが一中に行くのに、うちの子だけ外れてしまってどうしよう」というお母さんもいました。

Q) なぜみんな一中に行きたいのかしら？

A) 部活動が選べるだけの数があるんですね。学校説明会に行ったお母さんが、「一中は子ども

もたちにも、先生方にも活気がある」という印象を受けたという話しをしていました。一中は大きいですから先生の数も多いです。教職員は50人います。そうすると顧問のなり手もいるわけです。古ヶ崎中のように規模が小さくなると先生も少ない。そうするとサッカーとかバスケットなどメインになる担当の先生がいないと、そこでまた評判が悪くなって、悪循環。



対等な統廃合でない場合は、非常に子どもは傷つく

- ▶ お話をうかがっていると 当初は対等な学校統廃合ということで、新しい校名、新しい校歌にして新しい学校を作るとしていましたが、結局ふたを開けてみたら、クラス替えもしないでそのまま転校生のように入っていくという形。廃校になった学校の子もたちは、出来上がったところに入っていくという感じの統合ですね。
- ▶ 1年たてば、ほとんどの子どもたちは慣れて差し障りなく学校へ行っているのですが、当初はやはり、やり方のぜんぜん違うところへ入って戸惑うことがいろいろあって、そういうことによるストレスが子どもにも親にもあったのではないのでしょうか。工学院大学の講師の山本由美さんも「対等な統廃合でない場合は、非常に子どもは傷つく。そのことへのケアを十分にしないと、相当なストレスが子どもにかかる」とお話されていました。
- ▶ 根木内小と根木内東小は全然タイプの違う学校でした。根木内東小は小さい学校で、静かに授業を受けられたのですが、根木内小はにぎやかからしくて、子どもがそこに溶け込むのにとっても大変だったと聞きました。親が子どもに「大きい学校なりにいいところあるよね」と親がいいところを見つけて子どもを安心させるということで、親同士が話し合いをしたようです。今は少しずつ、子どもが慣れてきているようですが。

学校統廃合が、子どもたちにとって豊かな教育につながったのか

- Q) 教育委員会は、「学校統廃合というのは、子どもたちの教育条件などをもっと豊かにする、良くするんだ」と言って、保護者の方たちを説得していました。でも皆さんは、「学校統廃合によって教育条件が今より良くなるとは思えない」と。そこが論点でした。果たして、教育委員会が言っていたように、大きな学校になったことで豊かな教育になった実感がわいたのでしょうか。学校統廃合が、子どもたちにとって豊かな教育につながったのか。そこがやっぱり見えてこない。
- A) 運動場は狭いし、マラソンの練習をしようと思っても、人数が多くて今までのように自由に走れない。決していい環境になったとは言えません。子どもの中でも「思いっきり遊べない」というのは出てきています。今までと違って、たくさん子どもたちと接する機会が増えたというのは、子どもにとっていいことだと思いますが、失われたものと比べるとそれが勝るかということ、どうなのかなあ。子どもの『僕の学校がなくなった』という思いに勝るもの...ない。

通学距離が長くなってしまって、子どもたちの安全をどう守っていくのか

- ▶ 学校選択制が進むと学区があるのかないのかわからなくなってしまいそう。通学距離が長くなってしまって、今問題になっている子どもたちの安全をこれからどう守っていくのでしょうか。善意だけでは解決できない。

- ▶ 先日の教育委員会会議で、教育委員長の関さんが「子どもたちの安全を守るための予算をどう考えているのか。どんな施策を考えているのか」と事務局に質問していましたが、予算化しているのは子どもたちの交通安全指導とか、防犯ブザーを新一年生に配るとか、黄色い帽子の配布ぐらい。各学校ではPTAが中心になったスクールガードというボランティアを置いて、スクールガードリーダーが10校に一人いるんですって。それについての研修も今進めていると教育委員会事務局は説明していました。それに対して教育委員の人は、「そういうボランティアではなくて、きちっと予算化して、専門の警備員を配置すべきではないか」と言っていました。
- ▶ 学校の周りの登下校時のパトロールは、町会の協力を得るようにと市から言われているのでしょうか。町会に協力を頼むとしても、一つの町会から新西小にも行っている子もいる、横須賀小に行っている子もいる、馬橋北小、新南小にも行っているとなると、その4つの学校から頼まれたらどうするのだろう。
- ▶ 地域の人たちが子どもたちを守るために自主的に動くということを決して否定するものではないし、そういう目があってこそ本当に子どもたちを守れるということもあるし、ただ、教育委員会がそこに丸投げするようなことで子どもたちの安全を守ろうとしていることが問題。市は市としてどうやってやるのかということを持つべき。
- ▶ 先生や保護者、地域の人みんな集まって、どうしようかという話しをするというコミュニケーションがなければ、地域の中で子どもを見る目がつながっていかないだろう。いったいどこが危ないのか、何から子どもたちを守るのか、子どもたちを見る視点をどこに置くのかという話もしないし、守り過ぎないようにしようとか、目を皿のようにして子どもたちをがんにがらめにしないようにしようという話もしないのでは、あまり意味がない。学区が広がってしまったり、いろいろな地域から子どもが学校に来るのでは、そういうコミュニケーションが取れるのだろうか。
- ▶ 選択制を導入するときから心配していた問題ですね。地域が壊れてばらばらになってしまおうという。まさにそういう状態になりつつあるし、このまま選択制を進めていけば、子どもたちを地域で守っていくということがもっと困難になるでしょう。
- ▶ 学区外から来る子どもたちの安全という問題をどうするか。とりあえず、関心のあるあるいは心配している親たちや地域の人たちがこの問題を解決していくという努力をしなければ、現実に子どもは守れない。でもこういう問題はこれからいっぱい出てくるでしょうね。

跡地利用に関しては今度こそ一緒に考えさせて...

- ▶ 学校というあれだけ大きな建物が使われない状態だと、非常にさびれて、荒れ果てた感じがすると地域の方が言っていました。今のうちにまだ地域の人たちが跡地を利用しているうちはいいのですが...
- ▶ この年度末までに、庁内の跡地利用検討委員会の報告が出る予定になっています。その報告を議会や地域に説明して、その後1年半ほどかけて、最終的な結論をまとめていくとっています。2年後には何らかの形が決まるということですね。



- ▶ 学校統廃合はいつの間にか決まってしまうので、跡地利用に関しては今度こそ一緒に考えさせてくれと、校庭開放委員会から市教委へ申し入れしたんですが...
- ▶ 市教委はランドデザインができてから地域に示すとっています。

学校統廃合の時と同じことをまた言っています。同じやり方を繰り返すのだからなあと思いました。

- ▶ 地域で跡地のプランを作って、このように使いたいから運営を地域に任せてほしいというような手のあげ方をしないと、同じことの繰り返しになってしまう。

【パイロットスクール】

- ▶ 先日 横須賀小と新北中でパイロットスクールについての説明会がありました。もらった資料によると4つのポイントがあるそうで、



やればできるという自己効能感を形成できる学習指導を展開
(例えば週5時間の英語の授業)

学ぶことは面白いという欲求に対応した挑戦や出会いの機会を学習に組み入れていく(最先端の科学授業などを大学・企業と連携して面白い実験をやらせよう)

日常の学習指導や特別支援教育の場面において学校や地域が区分を超えた教育資源の連携・融合を可能にする制度を作り上げる(図書室・多目的室などを地域に開放。そこで地域の大人が勉強している姿を見せたい)

特別支援教育への推進

この4つ目は何をするのかよくわかりません。

- ▶ 校舎の改修は、一部の校舎だけ。改修した校舎の1階に図書室、2階に学習室、3階に多目的室をつくる。ここを地域の人に開放するということが、図書室は中学校の図書室、市の図書館の分館扱いにすることは今のところ考えていない。多目的室も、その利用が中学校の教育に関連したものに限られるような言い方だった。説明会での保護者の反応は、「小金中に2年たてば戻れるからといって自主的に選択制で新北中に来たのに、その2年が延びてしまった。結果的には、新北中に来なくなっちゃって、そのまま小金中で卒業できたのではないかと。何のために今年卒業する3年生を半ば見捨てるような形で残ってきて、新北中に移ってきたのか。」それから今年入学する人たちは当初の予定では戻ってきた小金中に入学できるものだと思っていたら、2年ずれたことで新北中に入学することに。この学年を谷間の学年といいます。自分たちは関係ないと思っていたら、その谷間に入ってしまった！と言う。(新北中が谷間?) このように、とらえ方がぜんぜん違います。いまだにパイロットスクールと聞いて、「航空高専ができるの?」と言う人も。でも不信感そのものは誰にもありますね。「先のパイロットスクールより、今の新北中を何とかしてくれ」という発言に対しては、拍手がでてました。
- ▶ このパイロットスクールの改修には13億2000万円の予算が立てられるようです。(9月議会で補正予算で出されるのではないかとことです)今年の夏までに設計をして、平成19年5月~8月解体工事、12月本体工事開始、そして平成21年4月に開校予定となっています。
- ▶ 当初の計画では平成19年開校予定だったのですが、それを2年延ばした理由は、その間にもっと地域の方と話し合いをして意見を聞きたいからと言っていました。
- ▶ でもこれまで地域に、どういう学校にしましょうかという相談はなかったのでしょうか。
- ▶ 今まではないです。1月6日の市議会教育経済常任委員会を傍聴したら、市議が「小学校のときあんなに反発を食らったのに、中学校でまた決まってから説明会を行うのか」

と質問していました。それに対し市教委は、「これからは決まっていなくても地域の方に経過報告という形でお話して、ご意見を承るよう努力します」と答えていました。

- ▶ 経過報告とはいいいながら、それに対し意見を言って、その内容が変わってくるかしら？



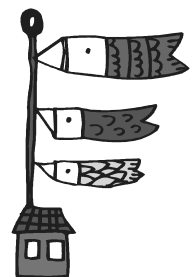
13億円をかけてまでつくる意味があるのか

- ▶ パイロットスクールの内容についての説明を聞いて、パイロットになるような新機軸を打ち出したすばらしい実験的な学校ができると飛びつくような内容が提示できたのかということ、それはあまり感じられない。
- ▶ 説明会でも、「本当に21年に開校するのか」と質問していました。そのまま新北中でいってしまうのではないかと危惧する人もいる。
- ▶ パイロットスクールの4つの柱というのは、学校の教育内容にかかわること。それを担う先生たちにはどういう話をしているのか。
- ▶ 最先端の科学授業をやると言っても、予算がついているわけではない。器具や設備だっで限られてしまう。大学や企業から教える人が来たとしても、それをフォローする中学校の先生もある程度勉強しないと。
- ▶ お金をかけずにやろうとしている。それと、思いつきだけでやろうとしている。
- ▶ やはり教師が参加して、それこそ教育研究所がその機能を果たして、そこでプランを練っていくということから出てこない、納得できるようなものはできてこない。
- ▶ 改築するほうの校舎に生徒たちの教室もあるんですか？
- ▶ ほとんどないです。一階には厨房、ランチルーム、特別支援教室など、二階にスクールカウンセラー相談室、調理室、職員室、校長室、放送室など、3階に教室が6個ぐらいできますね。
- ▶ 来年度の教育予算を見ていても、総額で約5億円減っている。その中でいくら起債するとはいえ、13億円をかけてまでつくる意味があるのか。
- ▶ 通常だったら、教育の中身をもう少し詳しく提示してやるべき。建物の設計も中身によって変わってくると思う。建てればいいというものではない。
- ▶ 市教委の狙いとしては、英語の授業を週5時間やって、そこに選択制で生徒が集るだろうということか。それを見てほかの中学校も、大変だとカリキュラムを考えていこうと、そういう刺激剤にしようとしているのかもしれない。
- ▶ 発想がとても腹立たしいのは、実は中学校の英語というのは、この間 時間数をどんどん減らされてきているのですよ。「こんなに減らされたら大変」と多くの中学校では英語の時間を確保するために、必死になってやっている。ところが、英語学習を週5時間やるんだと言う。文科省が学習指導要領を変える時に「こんなに減らされたら現場は大変だから、考える」と言っているならいいのだけれど、市教委は「この指導要領でやりなさい」と押し付けていた。
- ▶ 3時間は正規の授業で、あとの2時間は総合的学習の時間と選択教科でやっている。特区にするわけではない。
- ▶ それだったら今とあまり変わりがないですね。
- ▶ ということは、他の学校でも英語を増やしたり、他の教科を増やしたりというのを総合や選択を使ってもいいと公言しているようなもの。他の学校だって特色化としてやっていいということになる。

- ▶ 「パイロットスクールと言っても、目玉が飛び出るような実験をするわけではない。そんな大それた実験をするわけではないから大丈夫です」と言うんですよ。
- ▶ それだったら、研究指定校ぐらいでいいじゃない。
- ▶ 余計な時間とお金を使って、この程度のことしかやらないのなら、もっと大事なこと、やるべきことがあるでしょう。
- ▶ 地域に開かれた学校についても、千葉県の打瀬小や秋津小、その他いろいろなところで取り組まれています。みんな人もお金もかけている。
- ▶ 松戸は 教育理念というものがなくて、こういうことをやっているから、おかしいことになってしまう。

日常的に子どもをはさんで親と先生が信頼関係を築いて話ができるといい

- ▶ わが子がちゃんと育てていくためにはどうしたらいいかということで考えていくと、「一人一人の子どもをちゃんと見て！」と言いたい。
- ▶ 教育というのは、日々学校での先生と子ども、子ども同士など、人と人とで伝え合っていくもの。そうした伝え合う学習がどうしたら大事にできるかということにすべての力を注いでもらいたい。建物が少々古くても、先生が多めに配置されて、先生もゆとりを持って子どもとかかわれるとか、先生も自分が伝えていくものを豊かにするために勉強する時間があるとか...そういう人を大事にする施策がまったくなければ、どんなことをやっても毎日の学校生活は豊かになっていかないだろう。
- ▶ 日常的に子どもをはさんで親と先生が信頼関係を築いて話ができればいいと思う。けど今それがなくて、またそういう関係を支えるシステムもない。古ヶ崎南小で学校にお母さんたちがしょっちゅう出入りして、先生と信頼関係を結べた、そういう関係がどの学校でもできれば、互いに本音で語れると思う。
- ▶ もっと人が配置されて、先生方に余裕ができれば、学校内で先生同士が教科の指導方法などについて論議する時間が持てるはず。でも現状では無理。
- ▶ 今の中学校の先生は、部活動が指導できないとだめという見方をされてしまう。教科指導で評価されるということがあまりないような気がする。
- ▶ その上学校選択制で、学校が部活動で選ばれるとしたら、部活動をきちっとやるということが中学校にとって一番大事なことに思われてしまう。でも本来先生が勝負するところは授業。中学校の選択が部活動で行われることは本末転倒のことだと思う。



学校は地域のシンボリックな存在

- ▶ 古ヶ崎南の地域は地域としての活動が盛んだったところで、統廃合反対のときの地区協議会がそのまま地域の子もたちを見守る組織として残ればいいなあ、思っていたのですが、その後どうですか。
- ▶ 町会の方たちも、子どもたちの様子を気遣い見守ってくれていることについては今も変わらず、あの時ほどではないですけど、繋がってはいるなあと感じます。やはり、地域に子どもたちがいなくなってしまうのは寂しい、学校に通う子どもたちの姿が見えなくなってしまうのは寂しい、だから子どもたちのいるところにあわせて犬の散歩にも行くし、学校で何かあれば行くし、とおっしゃってくれています。

- ▶ そういう地域ができたというのは、学校があって、学校が何か発信してそのように繋がったのでしょうか。
- ▶ 早い時期から、学校から地域に声をかけてくれる機会が多かったと思います。他に大きな建物もなかったのも、学校は地域のシンボリックな、何かあったら学校でという存在だった。
- ▶ 古ヶ崎南小では、保護者会に8割方来る。それが当たり前だったそうですね。
- ▶ 小規模校だったので、親も一緒に盛り上げていかなくてはという思いが大きかった。
- ▶ 教育委員会は「教師はサービス業」という発想でいろいろやっている。保護者から見ると「先生方からサービスしてもらおう」という感覚で学校を見る。そういう保護者が多くなっているのではないかと。でも、古ヶ崎南では、学校と一緒に子どもを育てようという意識で、学校に来る。そこが違う。教育委員会がつくろうとしているコミュニティーというのは、むしろそういうものを壊していくものにしかないのではないかと。
- ▶ プランの中に書かれた「地域に根ざした学校」というのがあったが、まさに古ヶ崎南小はそれだった。ここをパイロットスクールにすればよかったのに。
- ▶ それを市教委にいったら、地域というのはそんなに小さな規模をさすのではないと言われました。
- ▶ やっぱり学校というのは歩いていける距離ですね。